

【第15回年次大会 シンポジウム：音楽の中にみるジェンダー意識の変容 要旨】

「J-POP 歌詞にみる若者のジェンダー意識と自己世界」

吉崎 泰博

若者たちの間で最も人気がある J-POP の歌詞には彼らの意識世界の一端が観察される。本発表では 2013 年版の『J-POP スーパーヒットソング 100』に収録されている 100 曲の歌詞分析を通して、今日の若者の意識世界を観察し、その中のジェンダー・バイアスの実態に迫ってみた。

男性歌手と女性歌手の間で歌詞の中身に顕著な相違がみられる。男性歌手たちに多い傾向として、愛を不毛にする現代社会の問題に言及しているという事実が観察されるが、女性ファンに人気の女性歌手には社会性を完全に放棄したような内容の歌が多くみられる。しかし、それが社会に残存するジェンダー・バイアスの結果かどうかについての確証はない。

若者の意識世界の中では一世代前と比較してジェンダー・バイアスが明らかに希薄化している。ゴールデンボンバーの「女々しくて」の歌詞は「男は強くなければならない」というかつてのジェンダー意識が事実上消失していることを示している。強い男が弱い女を守るべきだという常識も揺らいでいるようで、Superfly の「輝く月のように」では、女のほうが男を守る。

男女に共通する最も特徴的な傾向として、私的世界の内部のみを歌ったものが圧倒的に多いという点が挙げられる。しかし、歌われる私的世界の内容には男女差があり、男性が悲観的心性に傾いているのに対して、女性は積極的で明るく躍動している。武家社会から明治以降、今日まで続く日本の男性優位の社会常識が若者の意識から少しずつ崩壊に向かっているのかもしれない。

[参考文献]

- シンコーミュージック・エンターテイメント編(2013)『J-POP スーパーヒットソング 100 (2013 年度版)』シンコーミュージック・エンターテイメント
- 井上ノリミツ (2010) 『J ポップな日本語』主婦の友社
- 見崎鉄 (2002) 『J ポップの日本語—歌詞論』彩流社
- 鳥賀陽弘道 (2005) 『J ポップの心象風景』文芸春秋 (文春新書 432)
- 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ編 (2012) 『ポップカルチャーとジェンダー』明石書店
- 須藤晃 (1998) 『尾崎豊覚え書き』小学館

(よしざき やすひろ・北九州市立大学名誉教授)